2007年7月7日

古森重隆氏のＮＨＫ経営委員長選出について

ＮＨＫを監視・激励する視聴者コミュニティ

さる6月26日に開催されたＮＨＫ経営委員会で古森重隆氏が経営委員長に選出されました。これについての当会の見解を次のとおり発表します。

１．　まず初めに、かつてないほど注目された今回の経営委員長人事について、経営委員会はどのような議論を交わしたのか議事録を全面公開して、選考経過を視聴者に説明する責任を果たすよう要求する。

２．　今回の人事に関する最終的な評価は議事録の公表を待つ必要があるが、結論として経営委員会が古森氏を経営委員長に選出したことには強い疑義がある。なぜなら、そもそも古森氏については、富士写真フィルム（現富士フィルム）の事業再編成を軌道に乗せた経営人としての経歴のほかは、「周囲の評は『負けず嫌いの典型的な体育会系タイプ』」（『毎日新聞』2007年6月28日）といった人物評が伝えられるだけで、同氏が放送ジャーナリズムや公共放送についてどのような見識・造詣を持っているのか全く不明である。加えて同氏傘下の会社は多くの報道で指摘されたように「ＮＨＫと商取引があり、経営委員としての資格が疑問」視されている。そのような人物が経営委員に就任早々、委員長の職責を全うできるのか、視聴者が強い疑念を抱くのは当然のことである。

３．　加えて、多くの報道機関は一致して、古森氏が安倍首相を囲む「四季の会」のメンバーの一人であったことに注目し、同氏の経営委員長「起用」はそうした人脈も関わった政治任用であったと伝えている。とすれば、古森氏は、経営委員会への政治介入の「申し子」と言って差し支えない。こうした人物が政治からの自立を生命線とするNHKの最高意思決定機関の長に不適格であることは明らかである。

４．　以上のような見解を踏まえ、当会は今後、NHK経営委員長としての古森氏の言動を厳しく監視するとともに、同氏を委員長に選出した経営委員会全体の見識・言動を厳しく監視し続けることにする。併せて、当会は経営委員各位が、経営委員長がいかなる人物であれ、行政府や NHK におもねることなく、視聴者の声に真摯に耳を傾けつつ、権力の監視、豊かな放送文化の創造を使命とする NHK を監督する機関のメンバーとして、その職責を果たされるよう、期待するものである。

以上